

緩和ケアチームによるギアチェンジを支える関わり

－ 2 例の再発胃癌患者・家族に対して緩和ケアチームが行った支援について－

緩和ケアチーム

○近藤 恵子 北岡 智子 掛田 恭子 川崎 元敬
小栗 啓義 小松 智恵 松本 貴代 合田 和世
小林 道也

緩和ケアチーム（以下PCT）への年間依頼（2007年）60症例中10症例に対しギアチェンジを支えるケアが行われた。

【目的】

ギアチェンジ支えるケアが必要な患者・家族に対しPCTが担う役割を明らかにする。

【方法】

PCTが介入しギアチェンジを支えるケアを行った患者・家族を対象とし、研究協力の得られた対象者のカルテからギアチェンジを支えるケアに関わる内容を抽出した。対象者の家族に対し口頭と文書で、研究内容、匿名性とプライバシーの保護、自由意思に基づく研究参加と辞退について説明した。

【結果】

対象者は、2名の再発胃癌男性患者と家族（A氏：70代、地域のホスピスで永眠、B氏：50代、未婚、当院で永眠）。PCTによるケアは症状緩和と意思決定の支援を中心とし、疼痛緩和、意思決定能力の評価、治療・余生の過ごし方・療養場所についての意思確認、家族の予期悲嘆のケアやセルフケアの支持、等が抽出された。A氏へは見捨てられ感を与えぬことや継続ケアをめざし、ホスピスと連携し緩和ケア医の訪問や情報提供の機会をもった。B氏へは弁護士を交え、成年後見人・遺産相続・永代供養の手続きや、臓器提供・献体の申請を支援し、患者と医療チームの合意にてDNRの決定と鎮静を行った。

【考察】

ギアチェンジを支えるケアは複雑かつ多岐に及び、多職種や地域医療機関との協働は不可欠であるため、院内外を横断的に活動し、全人的な視点に立った実践や調整を行うPCTの役割は重要である。

〔平成20年7月4・5日 第13回日本緩和医療学会学術大会（静岡）にて発表〕